

## 記事詳細

[記事一覧に戻る](#)

### 桜島爆発防災訓練 (2015/01/10 6面) 有事の連携体制確認 / 建協鹿児島支部



地域連携で防災力向上を一。鹿児島市と県の主催による桜島の大爆発を想定した総合防災訓練が9日、鹿児島市の桜島溶岩グラウンドで開かれた。建設業団体を含む141機関から約4500人が参加して、本番さながらの実践的な訓練を実施。県建設業協会鹿児島支部(川畑俊彦支部長)は、デジタル無線やASPサービスなどの災害対策防災情報システムの流れを確認するなど、有事の際の連携体制などを確認した写真。同日は、桜島大爆発や鹿児島湾を震源とする震度6強の地震、それに伴う津波を想定し、64種目もの訓練を実施。建設業界からは、建協鹿児島支部のほか、県港湾漁港建設協会、桜島地域建設防災対策協議会、鹿児島市管工事協同組合などの団体が参加した。

今回が4回目となる同支部は、独自に構築したデジタル無線やASPサービス、スカイプを活用した防災支援システムを基に、各地区に配置した担当者と被災状況を報告。対策本部と情報交換を行い、迅速かつ効果的な対応を図った。

また今回は、デジタルカメラを搭載したラジコンヘリの空撮技術とコンピュータマッチングによる写真測量技術(3次元地形可視化技術)を導入。複数枚の空撮写真からDSM(数値地表モデル)が生成される仕組みに参加者らは関心を寄せていた。

同支部の吉丸義博理事は「われわれの防災システムや体制が迅速かつ的確に対応・運用できるかを検証するいい機会。今回の訓練で得られたデータを基に、さらなる効果的な災害支援活動が行えるように努力していきたい」と話した。

[更新:2015/01/14 No:666268]